

がん患者・家族向け冊子『もっと知ってほしい 急性骨髄性白血病のこと』製作

特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン（以下、CNJ）は、急性骨髄性白血病（AML）について科学的根拠に基づいた正しい情報を提供することを目的として、アヴヴィ合同会社の作成支援、株式会社毎日放送の協力のもと、一般社団法人日本血液学会、一般社団法人日本造血細胞移植学会の後援を受け、冊子『もっと知ってほしい 急性骨髄性白血病のこと』を製作しました。

急性骨髄性白血病は血液がんの一種で、急性骨髄性白血病（Acute Myeloid Leukemia : AML）は、リンパ球以外の白血球、赤血球、血小板のもととなる未分化（未成熟）な血液細胞である骨髄系前駆細胞ががん化し、急速に増殖して骨髄や全身の血液中に広がる病気で、何らかの原因で遺伝子や染色体に傷がつくことで発症します。まれに過去に受けた放射線治療や抗がん剤治療の影響で二次発がんとして急性骨髄性白血病を発症することがありますが、ほとんどの場合、原因は不明です。

『もっと知ってほしい 急性骨髄性白血病のこと』は、独協医科大学 血液・腫瘍内科 教授の三谷絹子先生監修のもと、急性骨髄性白血病の疾患概要から、検査法、標準的治療法、副作用等について、患者や家族、患者支援に携わる方々が知っておきたい情報を、20ページにまとめています。また、急性骨髄性白血病の患者さんによる治療体験を“Patients Voice（患者の声）”として掲載しています。



この冊子は、CNJのウェブサイト<http://www.cancernet.jp/category/publish> や、CNJの「血液がん」専用ページ <http://www.cancernet.jp/cancer/blood> ほか、CNJが運営するがん医療情報サイト「キャンサーチャンネル」内ブックレット<http://www.cancerchannel.jp> から無料でダウンロードが可能です。

この「もっと知ってほしいシリーズ冊子」は本冊子を含め全27種となり、全国のがん診療連携拠点病院での設置率も約96.6%¹と、多くの方に利用していただけるようになりました。このシリーズの冊子が、今まさに治療と向き合っている方々の一助となることを願っています。

是非、一人でも多くの急性骨髄性白血病の患者さんへこの冊子が届くよう、周知へのご協力をいただきましたら幸いです。

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

1991年に、二人の医師により、米国における乳がん患者向け冊子を翻訳・出版・無償配布したことに始まり、以来、FAX、Eメールによるセカンドオピニオンサービス、NCIPDQの翻訳Web公開（現在は終了）等で標準治療の普及に貢献してきた。2001年にNPO法人化、同年ホームページが日経インターネットアワードを受賞。2007年1月からは組織を一新し、専用事務局を開設し、がん医療の啓発イベントの開催、教育事業等を通して、一貫して「科学的根拠に基づくがん医療の普及啓発」に取り組む。これらの活動を通して、がんと向き合う人々が、自分らしくがんと向き合える社会を実現することを目指している。がんの最新情報発信のため2014年から毎年夏に開催しているCancer Forumは、2,000名以上の参加者が集い、がん患者・家族らのための最大級のイベントとなっている。2016年8月、認定NPO法人となる。

¹ キャンサーネットジャパン 2018年 がん診療連携拠点病院アンケート調査より

【冊子に関するお問い合わせ先】

認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&Kビル 2F

Tel. 03-5840-6072 / Fax. 03-5840-6073